

たいどう はん そ さゆう ばんぶつ これ たの しよう しか
大道は汎として其れ左右すべし。万物は之を恃みて生ずるも、而
ことば こうな しか な も ばんぶつ しよう いよう しか しゅ
も辞せず。功成るも而も名を有たず。万物を衣養するも、而も主
な つね およく しよう な ばんぶつ こ き
と為らず。常に無欲なれば、小と名づくべし。万物焉れに帰する
しか しゅ な だいい な だいい な こい もつ せいじん よ そ
も、而も主と為らざれば、大と名づくべし。是を以て聖人の能く其
だいい な そ つい みずか だいい な もつ ゆえ よ そ
の大を成すは、其の終に自ら大と為らざるを以て、故に能く其の
だいい な
大を成す。

【大体の意味内容】宇宙根本原理たる「大道」は、氾濫する水のように左へも右へも際限なく
いきわたる。万物はその働きに従って生まれてくるのだが、その「道」の偉大な働きを言葉
にして説明したり褒めたたえたりすることがない。森羅万象の造化を成し遂げているのに、「道」
はその功名を得るということもない。万物を育み養うが、その主とはならない。永遠に無欲
であるから、まったく目につかない微小なものともいえる。しかし万物すべてのものが、この
ような「道」の原理に立ち還ってきてしまうのに、すべての主になろうとはしないのだから、
これこそが本質的に「大」なのだと言わなければならない。したがって、聖人が自らの威徳を發揮し
偉大さを成し遂げるといふことは、最後まで自分自身を「偉大」とはしないからこそ、紛うこ
となき偉大さを完成させていることになるのだ。

「〇〇は空気のようなヤツだ」と言つと、現代ではとんでもない侮辱の言葉とみられてしまいます。
確かにこうした言い方をする人は、〇〇さんを「いるのかいないのかわからないような、どうでもいい
存在」といった軽蔑の意味で使っていました。だからその意味では思い上がった人に使われやすい、好
ましくない言葉であるのは確かです。

ただ、老子的な観点からすると、「空気のような存在こそ、最高に偉大な聖人」ということになるわ
けです。空気がなければほとんどの生物は生存できない、極めて大切なものなのに、空気自身は「自分

の偉大さ」を主張しません。バカにされながらも、すべての存在から必要不可欠とされている。

つまり真に偉大なものは、誰からも顧みられず、見下されても、黙ってすべてを支え、生かすような存在という事になるわけです。かなり寂しい話ですが、到底そんなことは耐えられずともめりませんが、究極のお手本として、心に叩きつけておきましょう。